

**跡部神社(あとべじんじや)(亀井2丁目)**  
蘇我馬子が聖徳太子とともに、物部大連守屋を、その阿都の館に攻めたところ「阿都」は、流川を中心としたこの跡部の辺りをさすものといわれています。この住地にある神社は、物部氏の一族の阿刀氏の祖神速日命をまつっています。式内社で、阿都桑市の館とか、阿都の川辺の館の名が日本書紀に見え、当時物部氏の根拠地でした。

**大聖勝軍寺(たいせいしょうぐんじ)(太子堂3丁目)**  
高野山真言宗に属し、観福寺(太子町)を上る太子というのに対し「下の太子」といいます。聖徳太子が物部守屋を滅ぼすにあたり信貴山の毘沙門天に祈願し、四天王をまつり、その加護により戦に勝ったので、この寺を建てたといわれます。本尊は如意輪観音で寺宝が多い。門前に守屋池、付近に鎧矢塚、弓代塚があります。

**流川神社(しづかわじんじや)(植松町3丁目)**  
祭神は、天忍穂耳命・饒速日命。社はずもと長瀬川の東岸にありましたが、天文2年(1533年)の大洪水で流失、元龜3年(1572年)、現在地へ移築されたといわれます。この地一帯は、物部氏のいたところ、この神社はふるくは竜草寺の鎮守でありました。境内には樹齢一千年という、大阪府指定の天然記念物の大樟樹があります。



**樟本神社(くすもとじんじや)(南木の本7丁目)**  
この地は物部氏の居住地だったのでその祖神をまつったものといわれます。北木本、本木にも同名の二座があり、ともに式内社。守屋が聖徳太子の軍を防ぐため、このあたりに「稲城」を設けたとき、城中に樟木があったのでこれを「樟木城」といい、村の名も「樟木村」となったが、後「本木」となったといわれます。境内には黄檗宗日蓮寺があり、薬師如来を本尊としています。大樟樹があります。

**稲城址(いなぎのあと)(南木の本7丁目)**  
この碑は、光蓮寺門前に昭和14年建立されました。聖徳太子が物部守屋の館にあった阿都の桑市を攻めた時、守屋は兵を集めて、この地に稲城を構えて抗戦したといわれます。稲城は稲で囲った城とか、稲積みの城であったと伝えられます。

**弓削神社(ゆげじんじや)(東弓削1丁目)**  
式内社で祭神は饒速日命、宇麻志麻治命。物部氏の祖神をまつっています。物部氏の一族の本拠地であったので、一族の弓削部の住地として弓削りを業としていました。道鏡の出身地として有名で、俗姓弓削連河内人也と続日本紀に記されています。孝謙天皇の病気をなおして一躍政界に出、臣下としては最高の太政大臣禰羅、遂に法王となりました。